

「私一人では何もできませんでした。
人に恵まれたからこそ、今があるのです」

COSMO ALPHA 株式会社 代表取締役

野崎 綾二
— Nosaki Ryoji —

(対談記事は*~*頁に掲載)

「私は、本当に恵まれた人間です」——野崎社長は、自身の過去を振り返ってそう語る。

社長が、何かをしたいと強く願った時、

手を差し伸べ、道を示してくれる存在が、目の前に必ず現れた。

「いただいたご縁一つひとつに感謝をしながら歩んできました」と社長。

出会いを大切にできる社長だからこそ、その背中を押したいと人は思うのだろう。

その思いは、社長の何よりの力となるのだ。

製造業における様々な経営課題を 自社の幅広い製造業ネットワークを活用して解決に導く

COSMO ALPHA Profile

COSMO ALPHA 株式会社

所在地 神奈川県相模原市中央区上溝 4-4-19
設立 2019年8月1日
代表者 代表取締役 野崎 綾二
事業内容 メーカー向けサプライヤー（部品調達）事業
サプライヤー企業向けコンサルティング事業
企業経営に関するコンサルティング事業

最適な加工工場を
探索・紹介する



About モノマド

『COSMO ALPHA』が運営する「モノマド」は、開発パートナーを探すベンチャーや新規のサプライヤーを探すメーカー、新たな協力工場を探す加工業者などの発注企業と、受注企業（工場）を仲介するプラットフォーム。
自社の幅広い製造業ネットワークを活用し、加工業者を探索・紹介する窓口として、ものづくり業界の加工依頼をより早く、スムーズに依頼出来る世界の実現を目指すものだ。

Flow 取引の流れ

「モノマド」では、品質やコスト、納期など、個別のニーズに対応した新規加工依頼先の獲得をサポートしている。発注企業が、同サービスの Web サイト内にある「探索依頼フォーム」に依頼情報を入力・送信すると、必要に応じて発注企業に追加ヒアリングを実施した上で、条件に合った企業を1社～数社、抽出・紹介する。自社で営業しなくても新規案件を獲得しやすくなる上、自社の強みを踏まえて仕事の紹介を受けられるので、マッチング率が高いのもこのサービスの利点だ。





代表取締役
野崎 綾二

俳優
志垣 太郎

一つひとつのご縁に感謝を抱き 新たな歩みの力とする

メーカー向けサプライヤー（部品調達）事業、サプライヤー企業向けコンサルティング事業、企業経営に関するコンサルティング事業を手掛けている『COSMO ALPHA』。「モノマド」事業として、発注業者と製造業者の仲介も行っており、製造業を陰から支えている。本日は、そんな同社を牽引する野崎社長に、俳優の志垣太郎氏がお話を伺った。



〈野崎社長の軌跡〉
宮崎県出身。小学校1年生で神奈川県横浜市に移り住み、サッカーに打ち込む少年時代を過ごす。中学生時代には神奈川県でベスト8の成績を収めるなど活躍。学業修了後は薦工事や金融先物取引業、OA機器関連事業での経験を経て『COSMO ALPHA』の設立に至る。

——早速ですが、野崎社長の歩みから。
高校卒業後はアルバイトに打ち込むようになり、薦職人さんの手元としてスタジアムの建設などに携わりました。そうして経験を積んでからは自身も薦職人として工事を手掛けるように。その中で、師匠と呼べる方と出会ったのです。
——ほう。その方について詳しくお聞かせいただけますか。
師匠は、大手総合建設会社で工事部長

を務めていた方で、野球場や高速道路などの大きな工事を手掛けた経験をお持ちでした。大手総合建設会社を退職後、偶然私と同じ現場で、師匠も薦職人さんの手元として働いていたのです。先輩から「あの人の仕事を見ておけ」と言われて注意して見てみると、仕事ぶりが只者ではありませんでした。私が今まで見たことのないようなやり方で、迅速に的確に工事を進めていくのです。それに衝撃を受けて、その方に直談判をして色々とお話を聞いて、自分と殆ど変わらないことを知ったのです。当時私は毎週鍼治療に行くほど身体を酷使していましたし、家族もいましたから、もっと収入が良くて身体を大事にできる仕事を探そうと考えて、転身を決意しました。

——確かに、薦工事には危険も付き物ですよね。
ええ。それで、金融先物取引業に転身して、営業担当として働き始めました。飛び込み営業をして契約獲得も順調にしていたのですが、扱う金額の規模などから徐々に金銭感覚がおかしくなって。気を病んでしまい、続けることが難しいと判断して退職。その後はOA機器関係の商社に入りました。法人営業の担当となりグループ会社を回る中で、中国での生産量を増やしてほしいとのご要望を多くいただくようになり、年に5回は中国出張もしていましたね。他にも、生産管理といった現場に携わった経験もあります。大手OA機器会社の取締役をしていた方から、相談役として色々とお話を伺っていただき、必死に働いていたものの、三人の子どもを育てるには収入的に厳しくて……。そ

——実際に教えていただいて、何か変わりましたか。
一年間みっちりとお話を伺っていただき、気がついた時には以前の自分とは見える風景が大きく変わっていました。そうして培った技術を活かして、ある会社の番頭として現場を取り仕切るようになっていたのです。そちらではゼネコンさんをはじめ多くのお客さまから懇意にいただいていたので、ご指名をいただくことも多々ありまして。お陰様で手が足りず、時にご依頼をお断りさせていただくほどでした。

培ったノウハウを活かして 発注業者と製造業者をつなぐ架け橋となる



column

野崎社長が率いる『COSMO ALPHA』では、半導体関係や真空装置、自動車製品、航空宇宙関係など、多数の分野におけるモノづくりを一元管理で請け負っている。製品開発をはじめ、プロダクトマネジメントやプロダクトデザイン、構想から設計（3D対応可）請負、リバースエンジニアリング、精密部品加工請負、溶接、二次加工、熱処理、表面処理など、多様な内容での一貫生産対応が可能だ。さらに、依頼された製品をただ生産するだけでなく、「設計する時間がない」「調達先が見つからない」「一元管理してほしい」「図面が描けない」などといったお客様の課題一つひとつに対応し、細やかなサービスで信頼を得ている。

そんな同社では、パートナー企業である『テクノポート』の「モノマド」事業を引き継ぎ、同サービスに登録した企業の中から発注者のニーズに合った受注企業の探索・紹介を手掛けている。コロナ禍で厳しい情勢が続く中で製造業を支える一翼として、同社の今後の活躍に期待したい。

——ご活躍ぶりが窺えますね。しかし、現在はまったく違う業種ですが、そこに至った経緯とは？

ある時に友人の結婚式で高校時代の友人たちと再会しまして。そこで話をするうちに、普通に会社勤めをしている友人たちの収入を聞いて、自分と殆ど変わらないことを知ったのです。当時私は毎週鍼治療に行くほど身体を酷使していましたし、家族もいましたから、もっと収入が良くて身体を大事にできる仕事を探そうと考えて、転身を決意しました。

——確かに、薦工事には危険も付き物ですよね。

ええ。それで、金融先物取引業に転身して、営業担当として働き始めました。飛び込み営業をして契約獲得も順調にしていたのですが、扱う金額の規模などから徐々に金銭感覚がおかしくなって。気を病んでしまい、続けることが難しいと判断して退職。その後はOA機器関係の商社に入りました。法人営業の担当となりグループ会社を回る中で、中国での生産量を増やしてほしいとのご要望を多くいただくようになり、年に5回は中国出張もしていましたね。他にも、生産管理といった現場に携わった経験もあります。大手OA機器会社の取締役をしていた方から、相談役として色々とお話を伺っていただき、必死に働いていたものの、三人の子どもを育てるには収入的に厳しくて……。そ

れでさらなる転職を決意していた時に、ある施工管理会社の社長さんから言われた言葉が、独立のきっかけとなりました。

——それは、どういったお言葉で？

その社長さんはとてもざっくばらんに色々なお話をして下さり、最終的には「自分でやってみたらどう？」と。私はそれまで必死に働くことに夢中で、独立という選択肢を持つことさえありませんでした。ところがその一言で「そういう道もあるのか」と気づいたのです。それから、本業とは別で働いていたアルバイトを辞めて独立の準備を進めました。

——第三者の言葉により、新たな道に気づかれたわけだ。

ええ。とはいえ、独立は簡単なことではありません。独学で勉強を重ねて、悩むことも多々ありました。そんな時に、私にとってメンターと言える方と出会い、経営コンサルティングをしていただいたことが、今につながっています。現在の主な事業は、メーカー向けサプライヤー（部品調達）事業、サプライヤー企業向けコンサルティング事業、企業経営に関する

コンサルティング事業のほか、『テクノポート』のパートナー企業として「モノマド」事業を引き継ぎ、発注業者と製造業者の仲介を手掛けています。

——紆余曲折を経て、今は立派な経営者となっておりますね。

いえいえ、正直私一人ではここまで来られませんでした。私は本当にご縁に恵まれていて、自分が何かを求めると、それに導いてくれる人と出会うことができるのです。これからも、人との出会いを大切にしながら、歩んでいきたいですね。

（2020年10月取材）



「穏やかな口調で、言葉を選びながら丁寧に対談して下さった野崎社長。そのお姿からも誠実なお人柄であることが伝わってきました。社長はこれまでに、多くの方々にお世話になってきたとおっしゃっていましたが、それは社長のそのお人柄あってこそなのだと思えます。これからも、そんな社長のままでいて下さいね！」
志垣 太郎・談